19.5mm			
- ている。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶し、 ビンで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじ	三輩は猫である。名前はまだ無い。 三輩は猫である。名前はまだ無い。 三れはTESTデータです。このように振り仮名を 「一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	五月から十月までを書きつけましょう。 ・ウパーゴなど、いまこの暗い巨きな石の建物のなかで 考えていると、みんなむかし風のなつかしい青い幻燈の ように思われます。では、わたくしはいつかの小さなみ だしをつけながら、しずかにあの年のイーハトーヴォの だしをつけながら、しずかにあの年のイーハトーヴォの	またそのなかでいっしょになったたくさんのひとたち、 市、郊外のぎらぎらひかる草の波。 一一のイーハトーヴォのすきとおった風、夏でも底に冷しあのイーハトーヴォのすきとおった風、夏でも底に冷しるのイーハトーヴォのすきとおった風、夏でも底に冷しまた。
るがあとは何の事やらいくら考え出る。胸が悪くなる。到底助からないと	が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻った。これが人間の飲む煙草というものである事はよっやくこの頃知った。 これが人間の飲む煙草というものである事はよたが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。 書生たが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。 書生たが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。 書生	であろう。この時妙なものだと思った感じが今でも 一ついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見 一であろう。この時妙なものだと思った感じが今でも っている。第一毛をもって装飾されべきはずの顔がつ ここんな片輪には一度も出会わした事がない。のみならず ここんな片輪には一度も出会わした事がない。のみならず	う考もなかったから別段恐しいとも思わなかった。ただ を表であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕煙族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕りる。しかしその当時は何というで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な

